

■中国：中国最大の太陽光発電案件を認可

GCL-Poly エネルギー・ホールディング（保利協鑫能源控股有限公司）は2012年8月28日、山西省大同市に建設を計画している大型太陽光発電所の開発認可を受けたと発表した。この案件は、31万kWの地上太陽光発電所の建設と総量3万kWの屋上太陽光発電設備の設置で、完成すると中国最大の太陽光発電となる。大同市は未利用土地資源の豊富な地区で、電力消費地である北京市と天津市、唐山市（河北省）に近いため、送電コストが低い。国家能源局は龍源電力公司、中国電力投資集团公司、中国節能公司、広東核電有限責任公司などの発電会社とサンテック、インリーソーラー、天合、アストなどの太陽光発電設備メーカーを招集し、太陽光発電産業の現状と問題点について協議の場を設け、政府側は太陽光発電産業の健全で持続可能な発展を促進するための諸施策を策定することを表明した。